

最初で最後のあなたへの手紙

佐藤杏寿

東京都・一八・高校生

お久しぶりです。日に日に寒さも増していますが、風邪などひかれていないでしょうか。

私と初めて会った時のあなたの第一印象、正直言って最悪でした。とても不真面目そうで、軽そうで、思わず友達にもなりたくない、そう思っていました。けれども数日たって、電話で初めてあなたの内面を垣間見た時、私の想像していたあなたと本当のあなたは、全く違っているということに気付きました。不真面目そうに見えるけれど、実はとても真面目で、軽そうに見えるけれども、本当は頑固で一途な人だったとわかりました。

それからどれくらい経ってからでしょう。気付いた時には、あんなに嫌っていたのが嘘のように、あなたを心から好きになっていく自分がそこにいました。最初の頃は何かお互いあまりにぎこちなくて、今思えば出すと笑ってしまいます。あれからいくつもの季節が過ぎ、お互いのこともだいたい前よりはわかり合えたつもりです。時には色々ぶつ

かったりもしました。けれどもその分二人の距離は縮まった気がします。

おそらくあなたは初めの頃のような緊張なんて、全くななくなっているのでしょう。けれども私はあの日から何も変わっていません。

あなたから少しでも連絡がないと不安で不安でたまらなくなります。電話が来るまでの時間がとても長く感じられ、落ち着きがなくなり、他の事は何も手につかなくなってしまう。そうしてずっと待ち続け、やっとあなたの声が聞けた時、あんなに不安だった自分が嘘に思える程安心感で包まれるのです。

私の毎日はこんなことの繰り返しです。私がああなたの役に立てる事など何もないのかもしれない。でも、もしあなたが私を少しでも必要としてくれるならば、喜んで何でもします。あなたを想わない時などありません。どうか体にだけは気を付けて。そして少しでも私のことを思い出してくれるのなら、もう何も望むものはないのです。